

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100318		
法人名	SOUシニアケア株式会社		
事業所名	グループホーム大久保		
所在地	千葉県習志野市屋敷3-1-12		
自己評価作成日	令和5年12月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和6年1月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階にデイサービス、2・3階に有料老人ホームを有した4階にある1ユニットのグループホームである。その4階からの眺めは素晴らしく、朝に夕に富士山を望む事ができ、入居者の方々も楽しみにしている。ホームは入居者数が9名と少人数であり、職員は一人ひとりに寄り添い、じっくりと関わり合いながらケアを行う事を心がけている。また、ホームの行事には地域のボランティアの方々にご来設していただき、デイサービスと合同で開催している。そして、4年振りの開催となった町会主催の「夏祭り」には入居者様をお連れし、地域の方々と一緒にお祭りを楽しんで頂くなど、町会との関係維持に努めている。これからも地域に根ざしたホーム作り、明るく清潔感のある環境作りを心掛け、入居者皆様に寄り添い、安心して穏やかに生活をしていただけるよう努めていきたいと思っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自分のできる事を見つけようそして続けて行きましょう」を理念に掲げており、職員ヒアリングでは、「やり過ぎない介護」、「できることを継続する」などの言葉が聞かれた。職員に理念が浸透し、日常の業務に繋がっていることがうかがえる。看取り体制が整えられ、利用者家族、医師、職員で話し合いを重ね、家族の思いを大切に、寄り添いながら、終末期を過ごすことができるよう努めている。地域の芸能ボランティアの受け入れ、町内会のお祭りに招待を受けるなど、地域との関わりも大切にしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分に出来る事を見つけよう・そして続けていきましょう」との理念をすべての職員が共有し、入居者一人ひとりのやりたい事、出来る事を見定め、洗濯や食事の片付け等、職員と一緒にい出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。	理念を事務所、リビングに掲示して、「やり過ぎない、出来ることを継続する」を合言葉に洗濯物をたたんでもらったり、男性には髭剃りを自分でしてもらい見守っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が直接地域とつながる事は少なくなりましたが、4年振りに開催された町会主催の夏祭りに参加するなど地域との交流に努めている。又、町内会長には運営推進会議に出席して頂いている。	町内会に加入しており、自治会の行事についてはチラシが回ってくる。感染対策で交流を自粛していたが、今年度は夏祭りに参加した。また、ボランティアの受け入れも開始している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では施設での認知症の方達への日頃の対応や見守りの方法等をお話している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し入居者やホームの現状、サービスの取り組みなどを報告し、議題についての意見交換を行っている。構成員の方々のご意見やお話に耳を傾け、よりサービスの向上に努めている。	町内会会長、地域包括支援センター、介護相談員の参加で、2か月に1回運営推進会議を開催している。会議では現状報告をおこない、意見交換をしている。	利用者家族に運営推進会議の開催案内をして、意見をもらったり、作成した議事録を送るなどして参加を促していくことも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の向上連絡会や研修会に出席し他事業所と取り組みについての情報交換をするなど協力関係を築くように努めている。	運営推進会議に地域包括支援センターの担当者の参加を得て、情報交換をおこなっている。また、市主催の向上連絡会や、多職種研修会に参加して、意見交換をおこなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、研修等で言葉による拘束も含め身体拘束についての正しい理解が出来るようにしている。身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回以上行い身体拘束をしない適切なケアに職員は取り組んでいる。	3か月に1回身体拘束等適正化委員会を開催し、議事録を作成している。研修も実施しており、議事録や研修内容について職員全員が共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法について研修を通して学ぶ機会を設けている。言葉の虐待を始めケアを行う中で全ての職員がお互いに注意を払い、気づいた点があればその都度改善点を話し合い虐待の防止に努めている。	/	/

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には資料の配布や研修に於いて学ぶ機会を設けている。現在も成年後見制度を利用している入居者がいる事で学ぶ機会を持つことができた。これからも活用に向けて役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約や入居後も、入居者や家族の不安や疑問には十分な説明を行い、理解、納得して安心してご入居頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時などに直接家族の意見や要望を聴きそれらの意見を職員間で話し合い運営に反映させている。又、市の介護相談員も定期的に事業所に訪れている。	介護相談員が定期的に訪問しており、利用者から聞き取った意見を報告してもらっている。また、家族が来訪した時や電話で意見を聞くようにしている。家でできていたことを継続させてほしいとの希望で、洗濯物たたみを日課にしている利用者もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から各職員が自由に発言出来るように環境づくりを心がけ、意見や提案があれば、朝・夕の申し送りや会議などで、その都度話し合い反映に努めている。	常勤職員は自己評価制度があり、個人面談をおこなう中で意見を把握している。非常勤職員についてはその都度意見を聞いており、職員間で議論して、改善が必要な場合は改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力や実績、勤務状況を常に把握しており、職員が働きやすく向上心の持てるよう条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の持てる力を把握し、社外の研修等への参加を促している。又、働きながらトレーニングをして行く事で技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の向上連絡会や研修会に出席し、同業者と交流する機会を作っている。他事業所と取り組みなどの意見交換を行いサービスの向上に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談から入居に至るまで、本人の意向や不安要因などに十分に配慮をし、本人の想いに寄り添い安心して生活が出来るホームだと心理して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の不安や要望これまでの経過、現在困っている事などを聞く機会を設けている。入居後も面会時や電話等で現状をお伝えし家族との信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を十分に受け止め、必要とされる支援を正しく把握するように心掛けている。又、その他のサービスも含め対応出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家族のように寄り添い、一緒に出来る事を見つけ、一緒に喜んだり、困ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りや電話などで日常の様子をお伝えし、職員では成せない事を家族に協力を得ることでご本人とご家族との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人がホームを訪れる事はないが、家族の面会はよくあり、馴染みの店へ外食に行くなど家族の協力を得ながら関係が継続出来る様努めている。	現在、対面での面会や家族との外出も可能としている。電話を取り次いだり、手紙のやりとりの支援もしている。家族の協力を得ながら、馴染みの関係継続が出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの気持ちを尊重し孤立することがないように体操やレクリエーション等へお誘いし、入居者同士が関わり合う事が出来る様努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて本人・家族からの相談には、親身に対応するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から生活歴、趣味、意向等を聞き、入居者が発した言葉や行動から入居者の気持ちを探りながら、本人の思いや意向の把握に努め職員間で共有している。	買い物に行きたいと希望する利用者や仕事へ行きたいと言う利用者には、その気持ちを受けとめ柔軟に対応している。職員は利用者の個性を把握して声かけをおこない、利用者の思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、本人や家族から入居前の生活歴、暮らし方を聞き、出来る限り今までの生活に近い過ごし方をして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を日々注意深く見守り、身心状態等の現状を申し送りなどで職員間で共有し、その方にふさわしい過ごし方が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族から要望や意見を聞き取り介護計画に反映させている。職員は経過を観察しモニタリングにて現状の把握に努め介護計画を作成している。	本人の意向は日頃のコミュニケーションから把握に努め、家族等からは計画作成時に希望を聞いている。計画作成時見直し時には担当者会議を開き、介護支援専門員が職員の経過観察やモニタリングをもとに計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子は個別毎の記録に詳しく記入し申し送り等で報告している。職員間で情報を共有する事でケアの見直しを行い実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、その都度生まれるニーズに出来る限り対応できる様、職員一同柔軟な支援やサービスに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会長には運営推進会議に出席して頂き意見交換を行っている。地域の行事も再開され夏祭り等地域の方々との交流できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医でも、入居後の訪問医でも適切な受診ができるよう普段から連携をとっている。又、事業所での情報も提供して支援している。	入居時に、全員ホームの提携医と契約をしており、訪問診療を受けている。24時間対応であり、家族等の安心感にもつながっている。専門医受診は家族の対応を基本としているが、必要に応じて職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックや観察で入居者の状態を把握し、異変を感じたら主治医、訪問看護師へ報告し指示を受け対応している。家族に報告し適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーなど医療機関へ情報提供をすぐに来るようにしている。又、入院後も早期に退院できるように医療連携室との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にはご家族に重度化や終末期についての説明をしている。入居後食事が摂れなくなるなど身体状況の変化の都度、医師の助言を得ながらご家族と話し合い、職員全員が方針を共有し支援に取り組んでいる。	見取りについては、入居時に指針などにより説明している。実際にターミナルが視野に入った段階で医師の意見を聞き、改めて家族に「同意書」「看取り介護についての事前確認書」により意向を確認して看取り介護に入っている。ホームでは希望があれば応じるとしており、昨年度は1名を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時には的確な対応が出来る様にマニュアルを作成し、職員は周知している。主治医、看護師からは常に適切なアドバイスが受けられる体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回、1階から4階までの入居者と職員が参加し、昼夜を問わず避難できる方法を身につける。地域との協力については今一度努力が必要と思っている。	避難訓練は年2回実施しているが、当ホームは4階にあるので、実際に災害が起きエレベーターが止まった場合の避難をどのようにしていくのか、検討の余地があると思われる。	火災想定以外の訓練について検討することが期待される。備蓄品については、管理体制を確立することも必要と思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重、プライバシーの配慮については、職員全員で対応できていると思っている。	トイレ誘導は耳元で「行かれます？」と尋ねたり、人に聞かれたくないと思われることを、みんなの前で話さないなど人格を尊重する支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望をいつでも話せるような雰囲気を日常的に作り自分で納得しながら暮らせる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は決まりや業務優先ではなく、入居者一人ひとりに向き合いその方のペースに合わせた過ごし方が可能な限り出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を伺いつつ、職員と一緒に洋服を用意するなど清潔感のある身だしなみが出来るように支援している。又、月に一度の訪問理容を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者を利用している為献立は決まっているが、季節の行事に合わせた献立の変更や盛り付けなど工夫をしている。職員と一緒にテーブル拭きや食器の片付けなどもして頂いている。	行事などの際は、食材を止めてホーム独自のメニューで、ちらし寿司など利用者が喜ぶ食事を提供している。利用者はできる範囲で、洗った食器を拭くなどしている。また、家族と外食に出かける人もいる。おやつはミキサー食の人も食べられるよう配慮してプリンやババロアなどを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録に残し、一人ひとりの食事形態や摂取状態を把握し、常に必要な栄養が摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底し、常に清潔が保たれるように努めている。一人ひとりの口腔内の状態を把握し口腔内に問題点がある時は訪問歯科の往診も行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し定時にトイレ誘導を行うことでトイレでの排泄が習慣となるように支援している。	ホームでは、立位が保てればトイレで排泄をしてほしいと考えており、自立に向けて支援をしている。自らトイレに行く人にも見守りは必ずしている。また、それ以外の人については定時でトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、排便の確認をしている。食事や水分、服薬にて調整しながら個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回の入浴日を決めているが、一人ひとりのその日の体調や要望に応じて、いつでも入浴出来るように対応している。	現在ほとんどの利用者について、安全に配慮して二人介助で対応している。自分でできる部分は自分で洗ってもらい、できない部分を職員が支援するようにしている。お風呂に入らないと言う利用者には、言葉をかけながら誘導したり、それでも難しい時は足浴に切り替えるなど、無理強いはいしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、日中は出来るだけ体操やレク等で体を動かし、適切な生活のリズムが整うように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの薬について理解をしている。チェック表を用いて薬の飲み忘れや誤薬防止に努めている。又、内服後の症状の変化にも留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの個性や出来る事を把握し役割を決めるなど、自己の得意分野で力を活かす事により有意義な生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は町会の夏祭り等が再開し家族や地域の方々に協力して頂き参加している。又、本人、家族の希望を把握し外出や外食で出かけられるように支援している。	今年度は地域の夏祭りに参加した。また、家族と一緒に外出や外食をする人もおり、支援している。近隣の公園には出かけるが、冬場は利用者が寒いから行きたくないと言う事が多い。この春にはお花見に出かけたいとしており、実現が期待される。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では現金を持つことを希望される方はいないが、ご家族とも相談し所持して使えるように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族とも相談し入居者の希望に応じてその都度家族や大切な人に連絡が取れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多くの時間を過ごすリビングには、入居者の作品や季節を感じられる手作りのカレンダーを飾るなど、家庭的で温かみのある環境を重視している。又、寒い時期の床暖房は皆様に好評である。	共有空間は清潔で清掃も行き届いている。リビングは明るく床暖房と窓からの日差しで暖かい。時計やホワイトボードの日付などで、見当識にも配慮している。廊下のソファで一人の時間を過ごす人もおり、利用者が思い思いに過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は、車椅子を使用している方が居る為、安全を重視しているが、仲の良い入居者同士で自由に過ごせる様な環境作りをしている。又、常に職員が気配りをし孤立する入居者が出ないように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向を聞きながら永年使い慣れた家具や生活用品、又写真を飾るなど思い出の品を活かし、入居者が居心地良く過ごせるように工夫をしている。	居室には大きなクロゼットを設置しており、ほとんどの荷物を入れることができ、部屋はすっきりとしている。自宅からオーディオやCDを持ってきて音楽を聞いたり、テレビを居室で楽しむ人もおり、それぞれが居室で寛げるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態を考え、使いやすさ・分かりやすさに配慮し、廊下には手すりを設置し歩行や立ち上がりの練習をして頂くなど出来るだけ自立した生活が安全に送れるように工夫している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと